



# 中日杯2024東海オープン

6月28~30日/アソビックスあさひ・アソビックスかにえ

## 女子石田万音、男子藤永北斗 '23デビュー組がともに今季V2

2015年から会場を提供してきた星が丘ボウルが昨年12月で閉鎖され、今年はアソビックスあさひ(男子予選・男女準決勝・男女決勝)とアソビックスかにえ(女子予選)の2会場を使って行われた。女子はデビュー2年目の石田万音(55期・アルゴセブン/ハイ・スポーツ社)が今季2勝目、通算4勝目を挙げた。男子も同じく2年目で、5月の吉川高広税理士事務所プレゼンツ2024で初タイトルを獲得したばかりの藤永北斗(61期・namcoワンダーボウル南熊本店)が制した。(主催：中日新聞社/東海ボウリング場協会/日本プロボウリング協会東海地区)



▲1ピン差で優勝決定戦進出を逃した斎藤は「左右のレーンともうまく合わせられず、3位という結果には大満足」

▲石田(左)と藤永、同じ2023年デビューの二人が今季の主役になりそう

▲翌日入籍するという田中「気合を入れて臨んだけど、右では一番だったので、自信にしたい」

▲「最近の女子のトーナメントは幅をとれるレーンが少ないけど、今回は得意なラインを投げられた。優勝決定戦は(姫路)麗さんが相手にパニックになるかと思ったけど、すごく冷静だった」と石田

▲「去年プロテスに受かってデビュー戦が東海オープン。ラウンドロビンに残ったけど最下位の12位に終わった。だから2勝目というよりも、この大会で優勝したいという気持ちが強かった」と藤永

タートの姫路が一気に突っ走るかと思われたが、5フレは⑤⑩と割れてオープンなど、中盤以降はもたついた。石田は「2フレはちゃんと投げて割れたので、さあどうしようという感じでした。右レーンは左よりも先の入りがきつかった。厚めで割れるよりは薄めでと、立ち位置を左レーンに合わせた」アジャストがはまって、4フレから6連発で逆転。235:198で姫路を退け、昨年のSSSカップ優勝決定戦で敗れたリベンジを果たした。

が右投げではただ一人進出を決めた。そのシュートアウトは、ここでも大久保が3フレからの7連発で1位、そして225の藤永が224の斎藤を1ピン差退けて優勝決定戦に進んだ。「シュートアウトの最後が、流れて8本カウントだった。オイルが伸びていると思って、優勝決定戦は先でしっかり向いてくれるように、リリースでサイドを強く入れるようにした」藤永は、1フレから快調にストライクを連発。一方「ちょっとずつアジャストしたけど、飛んで



### 石田万音が姫路麗に雪辱

予選(10G)、準決勝(5G)の上位12名をグループラウンドロビンへ選出、決勝は4名ずつの3グループに分かれ、ゼロスタートで総当たり3G及びポジションマッチ1Gを投球し、各グループの1位及び1位を除くポイント最上位者の4名が決勝シュートアウトへ進出した。

プロ112名、アマ20名が出場した女子は、今年デビューの野仲美咲のほか、姫路麗、霜出佳奈、石田万音のタイトルホルダーがシュートアウトに進んだ。そのシュートアウトは、



▲「新人戦で予選落ちのあと、気持ちを切り替えてこの大会に向けて練習してきたかがあった」と初の決勝進出の野仲

248を打った姫路が危なげなく勝ち上がり、8フレからのダブルで204とまとめた石田が2位で勝ち抜けた。

優勝決定戦は、石田が2フレ④⑥⑦のスプリットでオープンを作ったのに対し、ダブルス



▲34勝目を前に足踏みみの姫路「グリコのトップシンドで負けたときのこと、頭をよぎった悔しいと仕方ないの気持ち半分」



▲「アイキョーホームのときに感じた課題克服のために練習に取り組んできたけど、その成果は出せたと霜出

昨年鮮やかなデビューを飾った石田、2年目のジグズどころか、無限の伸びしろを感じさせる19歳だ。

### 大久保雄矢が大会をリード

プロ132名、アマ72名が出場した男子は、「イージーミスがゼロだったし、すごく内容がよかった」と自己評価の大久保雄矢が、予選、準決勝を1位通過、さらにラウンドロビンも4戦全勝と完璧な内容でシュートアウトに進出した。そして各グループ1位の藤永と斎藤祐哉に加え、2位で最上位の田中椋也



▲優勝決定戦までは完璧な流れだった大久保「優勝には運も必要。優勝争いできることに誇れることが増えているので、焦らずに」

くれない」と大久保。結局セミパーフェクトの279を叩いた藤永が、228の大久保を制した。

今季は開幕戦で初タイトルを獲得、2戦目のGlico17アイス杯が準優勝、そして3戦目で2勝目と、藤永の快進撃が止まらない。



▲ベストアマは戸塚知菜選手(アソビックスびさい)と安田昂平選手(コロナキャットボウル安城店)

